

公民館かながわ



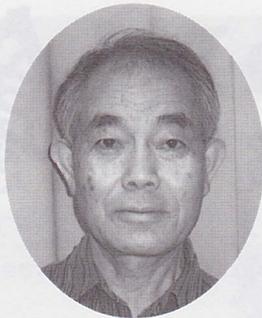
目次

地域の「期待」と「必要」に 神奈川県公民館連絡協議会会長 京 利 幸……………2	平成二十一年度神奈川県 公民館連絡協議会総会報告……………3	特集 新館紹介 「厚木市立睦合西公民館」……………4	わが館の自慢事業 「識字学級から多文化共生社会へ」 (川崎市教育文化会館)……………5	サークル紹介 「コールフレンド」……………6	「みんなで創るコンサート」 実行委員会 (大和市立つきみ野学習センター)……………7	職員からの一言 相模原市立大野中公民館 園部 祐美子……………7	公民館総合補償制度 案内・編集後記……………8
------------------------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------------------------	---------------------------	--------------------------------------------------	----------------------------------------	----------------------------

地域の「期待」と「必要」に込めて

「公民館は地域と暮らしの句読点」

神奈川県公民館連絡協議会会長 京 利 幸



これまでの「尽力」に感謝！

二十年間、会長として県公連のために精励され、この度退任された神崎会長の跡を継ぐことになりました。未熟な私ですが、皆様との心の通い合うコミュニケーションを大切にし、三意(誠意・創意・熱意)を尽くして精一杯努めようと思えます。これまでと変わらぬご指導・ご鞭撻をお願いします。神崎会長の在任中は激震の時代で、試練と忍耐の日々にストレスが溜まったにちがいありません。特に、「地方分権、行財政改革、規制緩和」の名の下で、公民館は社会の大きな荒波にさらされ続けてきました。職員や予算の削減等、指定管理者制度の導入、教育基本法の改正、社会教育法の改正等に

より、自治体では社会教育行政施策の転換を余儀なくされてきた中で、公民館の存在をかけて体を張って耐え抜いてこられた神崎会長の長年のご努力とご苦勞に感謝します。なお、これまでの活動が報われ、六月に県民功労者賞を受賞されたことを皆様に報告し祝福したいと思えます。本当におめでとうございました。

燃える眼で地域を灯す

久しぶりに、公民館担当者研修に三日間参加することができた。会場となった神奈川県生涯学習情報センター研修室は、県内から公民館関係の大勢の職員が参加して熱気に包まれていた。私は新鮮な気持ちになると同時に、公民館に心強く思い嬉しくなった。研修は公民館職員の生命線であり、資質向上を図る必須条件であり、その努力が絶えず求められている。中国の諺に「聞いたことは忘れ、見たことは覚え、したことは理解する」というのがある。研修で学

んだ成果を地域の人々に活かしてほしい。地域社会の軸の一つに公民館が在ることが、地域住民の期待と必要に応える大きな要素になると思う。地域との絆を確固たるものにしてほしい。

私はこれまでに公民館職員に三つの眼と三つのトゲを見てきた。公民館の仕事が生きがいになり、眼を輝かす職員。役所仕事のように決められたことのみを淡々とこなす眼。公民館にすることが苦痛で早く異動したくて暗く沈む眼。また、窓口での対応などで、職員威圧する眼のトゲ、口のトゲ、態度のトゲを指摘されることもあった。職員には燃える眼をもちトゲのない態度が求められそうだ。

公民館の内なる努力に向けて

「こんな公民館はいらない！」と住民から愛想を尽かされたいためにも、公民館の内なる変革への努力が必要に思う。

①協働(パートナーシップ)による参加型運営・事業の充実を図っていく。これまで啓発型から援助・支援型に変わり、今日では学習する当事者と学習をデザインする傾向にある。その制度化はまだ確立されていない。協働事業は首長部局で定着しつつあるようだが、住

民の「公民館離れ」をきたさないためにも是非必要だと思う。
②マネージメント・サイクルによる評価の確立を図っていく。
私の頃は、PDS(Plan - Do - See)で、企画・実施・反省・総括というサイクルで事業等を評価していた。現在は、PDCA(Plan - Do - Check - Act)のサイクルで常に直すことのできる評価の仕方に変ってきている。公民館でのこの手法を考えていきたい。

県公連の内なる努力に向けて

公民館から「こんな県公連はならない！」と言われたいためにもこれまで以上に努力を尽くし、県内の公民館に寄り添うことのできる組織でありたい。そのために、事務局と役員とのコミュニケーションを大切にし、車の両輪のように公民館とこれまで築いてきた絆を更に発展させていきたい。

そのために、①これまで以上に研修の充実を図り、公民館の課題に応えていきたい。研修は公民館の生命線であると思う。②調査・研究の成果が各公民館や諸大会、研修の中で活用される方法を見出し

たい。③県公連大会の充実を図り、公民館の課題を共有し確認し合う場でありたい。④県公連組織の充実のためにも、部会活動の活性化が望まれる。役員や部会には一部公募を導入したらどうなるか、考えてみたいと思う。

⑤夢物語として、県公連サロンを設け、仕事を離れて気軽に立ち寄れて、コミュニケーションを通して生きる勇気が湧いていくような刺激的な場があるといいなと思いませんか。

平成二十一年度 神奈川県公民館連絡協議会総会報告

五月二十二日(金曜) 厚木シティプラザ5階ヤングコミュニケーションセンターで開催されました。出席者は五十三名(委任状二十一名)でした。

総会は、久保田副会長の開会の辞に続き、神崎会長の挨拶がありました。ご祝辞は神奈川県教育委員会教育局生涯学習文化財課海北課長、厚木市教育委員会教育総務部山本社会教育担当部長のお二人より頂戴しました。

【議事】

厚木市教育委員会教育総務部 甘利社会教育課長の議長のもと議事が進められました。

議題では、平成二十年度の事業報告、収支決算報告、平成二十一年度の事業計画案、予算案が全て承認されました。

今年度の年間活動テーマは、主題を「公民館の連携がつくる新たな地域社会」として、副題が「社会教育が拓く ひとつづくり まちづくり」となりました。

主題については、社会教育の基礎機関である公民館どうしが連携を密に行うことで、地域間の住民交流を促進し、学習の幅を広げ、新たな魅力を生み出していくことが重要であるので、公民館ネットワークをより強固にすることが、今、公民館として生き残れるカギではないかとの考えから掲げました。また、副題については、近年、

生涯学習と社会教育が混同している中、社会教育が主役になり、ひとつづくり、まちづくりを推進していくことが重要であり、それは、社会教育の拠点である公民館の役割が大切であるとの思いから設定されました。

新たなテーマのもと、総務部会、広報部会、館長部会、主事部会、大会部会を中心として今年度の事業が展開されていきます。

公民館関係事業については、公民館館長研修会を逗子文化プラザ市民交流センターにおいて平成二十一年八月二十五日(火)に、館長・公民館運営審議会委員等研修会を藤沢市立明治公民館において同年十一月二十日(金)に、神奈川県公民館大会を逗子文化プラザホールにおいて平成二十二年一月二十八日(木)に行います。

また、会則及び表彰規程の一部改正が承認されました。なお、平成元年度から二十一年間にわたり会長職を務められた神崎節生氏が退任され、京新会長から顧問に委嘱されました。

平成二十一年度、二十二年度の役員が承認されましたので紹介いたします。(部会は部会長及び副部会長のみ掲載・敬称略)

会長 京 利幸

(学識経験者)

副会長 栗原 旭

(秦野市立東公民館館長)

〃 洪谷 正

(相模原市立上鶴間公民館館長)

〃 木下 敬之

(厚木市立睦合南公民館館長)

監事 森 俊彦

(茅ヶ崎市立南湖公民館館長)

〃 澤地 彩江

(箱根町社会教育センター館長)

顧問 神崎 節生

(学識経験者)

総務部会長 豊岡 裕一郎

(川崎市幸市民館館長)

副部会長 波塚 浩司(愛川町生涯学習課副主幹兼社会教育主事)

広報部会長 植松 賢也

(座間市立東地区文化センター館長)

副部会長 見留 俊也

(平塚市中央公民館館長)

館長部会長 宮田 幸紀

(厚木市立厚木南公民館館長)

副部会長 柏木 重信

(茅ヶ崎市立松林公民館館長)

主事部会長 森永 健太

(横須賀市市民生活課主任)

副部会長 小嶋 千穂

(二宮町生涯学習課主任主事)

大会部会長 鈴木 久夫(逗子市社会教育課課長補佐・館長事務取扱)

副部会長 猪俣 武司

(秦野市立本町公民館館長)

(秦野市立本町公民館館長)

新館紹介!

厚木市立睦合西公民館



小田急線本厚木駅から北西へバスで約二十分、田園風景が広がる荻野川のほとりに、平成二十一年四月一日、睦合西公民館が市内十五館目の公民館として誕生しました。

睦合西地区は、土地区画整理事業の実施により、新市街地が形成され、更には中心市街地と同地区を結ぶ国道四一二号線バイパスが貫通しています。そのため、アクセスが容易なことから、同公民館へ多数の市民が来館、様々な活動が行われています。

睦合西公民館は、敷地面積四六五六㎡、鉄筋コンクリート造り二階建て延床面積一七六四㎡の施設。五十一台分の駐車場を備え、車で移動する人たちが利用しやすい施設となっています。

一階：事務室 保育室 体育室
学習図書室 調理実習室
工作室
二階：音楽室（二室） 集会室
和室

屋外：多目的広場
公民館の特徴は、敷地面積が広いことで、各種イベントなどで多種多様な使い方ができる多目的広場が中庭にあります。

また、他の公民館では見られない、吸音と拡散の防音機能を持つ音楽室が設置されるなど、利便性の高い公民館として、注目されています。

館内ではできる限り段差をなくし、「みんなのトイレ」を設置するなど、高齢者や体の不自由な方を始め、誰にでもやさしく、利用しやすい施設であり、ハートビル法に基づく認定建物となっています。

また、厚木市立中央図書館とオンラインで結ばれている公民館図書室では、中央図書館の蔵書も、インターネット（通称マイタウンクラブ）で予約して受け取ることができます。

公民館は、市民の皆さんが余暇を有意義に活用し、教養を高め、健康を増進し、生活に潤いを持つための学習と文化活動の場・仲間づくりの場です。多くの方に、利用していただき、活力のある地域づくりを目指していきます。

【交通案内】

バスⅡ小田急線本厚木駅より
松蓮寺行き（08番）乗車二十分、松蓮寺下車徒歩十分。
車Ⅱ国道一二九号線から国道四一二号線バイパスへ。八幡神社前の信号を右折すると直ぐ。

わが館の自慢事業

「識字学級から多文化共生社会へ」

川崎市教育文化会館



識字学習活動は、外国人市民等が日本での生活を円滑に営めるように、日常生活に必要な基礎的日本語を身につける場であり、支援する場です。川崎区では平成五年に教育文化会館田島分館に開設されたのが始まりで、現在は教育文化会館で「にほんごひろば」という名称で活動を行っています。川崎区には、歴史的経緯により在日韓国・朝鮮人をはじめとする外国人市民や外国人労働者が多く在住し、その中で、週1回（毎週水曜）日午

後七時～八時三十分、年間四十回及び自主学習）の開催日には、大勢の学習者（外国人市民等）が集まって来ます。近年の学習登録者数（延人数）は、平成二十年度は五百四十六人（三千五百十二人）で、毎年加速度的に増加しており、単純に計算すると毎回八十七人が参加したことになります。

この延人数にはカウント漏れの学習者もいて実際はさらに多く、学習時には四十名のボランティアが加わり、会場（4階全室）は人で埋め尽くされます。

日本語が全く話せない方（初級）には、物や人物のイラスト等を使ったり、中級、上級の方は、興味のある事や生活や医療等の話題について会話中心に学習していることが多いです。

学習者の増加に比べボランティアは常時不足がちで、多数の学習者を支える仕組みの整備が課題となっています。ボランティア増員のための入門研修を行っています。困難さを感じてか登録に至らないことも多々あります。その中でボランティアは、一人で、学習者が多い時は八人程を対応するので、熱意を持って取り組むボランティアが

び学習者には敬服します。経験を重ねたボランティアは活動の必要性を肌で感じ、コミュニケーション及び行政からの支援が不可欠だと感じているようです。一方活動経験が浅い方は目の前の学習者に対してどう学習を進めるかで手一杯のように思えます。社会教育事業として、ボランティアの自主活動を促し、地域で活動できるようなシフトすることが望まれる姿であり、そういう循環こそが多文化共生社会の一端を担っていくのでしよう。

ただ、渡日直後の日本語が全く話せない学習者がほぼ半数を占め、日本語を聞くのも初めてといった学習者の支援が現状でどこまで可能なのか、新しい支援策は無いのか、日々を重ねる度その思いを強くしています。

（教育文化会館 能塚 正輝）

「交通案内」

川崎市教育文化会館
JR川崎駅東口下車よりバス
水江町行き（20番）、市営埠頭行き（24番）乗車、「教育文化会館前」下車。※徒歩15分
044・233・6361

サークル紹介

「コーラスフレンド」

箱根町社会教育センター



箱根町は明鏡芦ノ湖や美しい山など、豊かな自然と古い歴史の中で培われた文化遺産をもつ国際観光地です。

私たちは、この箱根にある社会教育センターで活動しているコーラスグループです。

平成元年に、公民館で開催された音楽講座をきっかけに歌の好きな仲間が集まってグループが結成されました。

そして、今年の六月に社会教育センターまつりで「結成二十周年記念コンサート」を開催し、設立当初の指揮者の先生をお迎えするとともに、「フルートアンサンブルはこね」のメンバーにも友情出演

していただき、大勢の皆様の前で大好きな歌の数々を発表することができました。

私たちは、月二回社会教育センターに集まり仲間とともに楽しく声を合わせ、心を合わせて歌っていますが、この時間は、かけがえないひと時です。

生涯学習の一環として始まったコーラスですが、年々レパートリーも増え、声が一つになった時、何とも言えない感動と喜びで一杯になります。また、ストレスの発散にもなり、口を大きく開け、お腹から声を出すと、顔やお腹の筋肉を使うので、健康維持にもつながるのではないかと思います。それがコーラスになると、もっと楽しいものになり、私たちの若さの源となっています。

練習の成果は、「生涯学習フェスティバル」「敬老会」をはじめ、病院のクリスマス会や小学校の学習発表会など様々な行事で披露させていただきます。歌を通じて聴いてくださる方々

から、あたたかい拍手をいただき、日ごろの練習の苦労も吹き飛び、次への活動の励みになります。やっと成人式を迎えたばかりの私たちですが、これからも「歌を心に」明るく元気に明日に向かって活動していきたいと思えます。

会長 播磨靖子

サークル紹介2

「みんなで創るコンサート」 大和市立つきみ野学習センター

私達はみんなで作るコンサート（通称みんなコン）実行委員会です。みんなコンは平成十三年大和市つきみ野学習センターで始まり、地元中学校と高校から集まった八人の学生がボランティアスタッフとしてコンサートの運営に参加しました。翌年に五人の学生を中心に結成し、以後異年齢間の交流と地域への良質な音楽情報提供を目的に、コンサートの企画・運営をボランティア活動で行う事業として大和市教育委員会との共催で、つきみ野学習センター職員の支援を受け、活動を続けています。



級・進学します。第一回目に参加したスタッフは既に成人し、社会人や大学院生、就活中の人もいます。現在、スタッフとボランティア（O）BやOG）は総勢三十七人。

「交通案内」

箱根町社会教育センター
足柄下郡箱根町小涌谷五二〇
箱根登山鉄道「彫刻の森駅」下車徒歩五分
0460・82・2694

代表は二十歳以上のスタッフが進級・進学に合わせて一〜二年で交代します。家庭・学業を最優先、自らの意志で参加し、楽しんで活動に参加することが基本理念のため、部活や試験、塾などの予定により会議参加者はその都度変化します。三十分だけの参加や、一年ぶりの参加も珍しくありません。会議の合間に試験勉強なんてこともあります。気楽に参加ができるので、活動は今年で八年目を迎えましたがいっでもアットホームな雰囲気です。

私たちはこれからもジャンルに囚われない音楽企画で、楽しく活動をしたいと考えています。今までに「インドの楽器を弾いてみよう／聴いてみよう(二〇〇四年)」「今ティーンエイジャーはクラシックBOM(二〇〇六年)」等を行い、今年の「第九回みんコン」は「不思議な音」をテーマに十二月六日に開催します。

実行委員会事務局 畑中英俊

【交通案内】

つきみ野学習センター
大和市つきみ野五・三・五
東急田園都市線「つきみ野駅」
下車徒歩七分
046・275・0088

職員からの一言

『学びの仕掛け人を目指して』

相模原市立大野中公民館公民館活動推進員 園部祐美子

公民館で働き始めて5年目になりました。4年前の採用時には全く公民館のことは知らず、自分ができるような立場で何を目的に働いているのかわかりませんでした。

そんな中でも4年間地域とのかかわり合いの中や研修の中で公民館とはどのような役割を持つ施設なのか理解することができ、ようやく5年目にして公民館らしい事業ができるようになってきたと感じています。

常々感じていた課題は、公民館は仲間作り、地域づくりの拠点としていながら実際は単発事業が多く、人のつながりがあまり出ていないのではということでした。

今私が担当している『畑で育てよう地域の輪』という事業は公民館らしい事業ではないかと思っています。この事業は農作物を育てながら、地域の大人と小学生がふれあい、食や農、環境などについて考えるきっかけにするという年間通じている事業です。

人の輪をつなげるためにはやは

り長い時間が必要だと思っていましたので、地域の方の発案により企画したこの事業は、住民の手による、住民のための事業を組み立てることが出来たのではないかと思っています。

4年間公民館で働いてきた私が思う公民館職員に必要なことは、地域と関わる時間をたくさん持つことだと思います。地域住民とたくさん話をして地域の人を把握し、地域住民の思いを受け止めること。



[右から三番目が筆者]

様々な場所へ出向き地域の様子を把握することが大事だと思います。先ほどの畑の事業も地域住民との雑談の中から生まれた事業です。

公民館職員は住民主体による地域活動を、出過ぎず、引き過ぎず支え、そのバランスがとても難しい職業だと感じます。ただそのバランスはその地域とどれだけ関わる時間があるかにかかってくるものではないかと思えます。

相模原市の公民館職員は非常勤で限られた時間内しか働くことができません。公民館職員にとって大事な地域と関わる時間を大切にしていくって欲しいと思います。そして最後に、公民館の可能性は無限大です。地域の人との会話の中で地域課題が見え、その問題を公民館で得たあらゆる情報、人のつながりを生かして解決方法を探す。そして私自身も無限大の可能性の中で仕事ができ、成長させられていく。それがこの仕事の魅力だと思えます。

【交通案内】

相模原市立大野中公民館
相模原市古淵三・二一・一
JR古淵駅から徒歩六分
042・746・6600

編集後記

これまで二十年間、神奈川県公連の顔として、県内の公民館の発展・振興に尽力された神埼会長が勇退されました。常々「公民館の発展は職員力量次第だ。」と、職員自身が社会教育を学ぶ(OLT)ことの大切さを語られていました。県公連がその一翼を担えるように、協力して公民館実践を積み上げていきましょう。

各市町村の公民館の活動をお知らせしていきます。よろしくお願います。

広報部会
 昼間 豊(川崎市高津市民館)
 見留俊也(平塚市中央公民館)
 村澤正弘(大和市立つきみ野学習センター)
 小野厚次(南足柄市福沢公民館)
 北村和弘(足柄下教育事務所)
 植松賢也(座間市立東地区文化センター)

△ 社団法人 全国公民館連合会

平成21年度

公民館総合補償制度

自治公民館を含むすべての公民館活動を支援する制度です。

市町村の公民館および自治公民館、また社会教育法に定められた「公民館の目的」に寄与するための施設は、名称を問わずご加入いただけます。

1. 行事傷害補償制度 【災害補償保険(公民館災害補償特約)・共済見舞金】

- 公民館行事参加者のケガを補償します。
- 公民館利用者のケガを補償します。
- 行事準備中、行事往復途上のケガを補償します。
- 急性疾病死亡と公民館建物火災に共済見舞金を支給します。



行事傷害補償制度のここがおすすめ

- 手続きが簡単!** ●年1回の加入手続きで年間行事が対象になり、個別の行事予定の通知は不要です。
- 対象者が広い!** ●親が参加する行事に同伴した同居の未就学児の往復途上も補償します。
●行事参加者や公民館利用者の居住地は問いません。
●公民館が公認するサークル活動の参加者も補償します。
- 補償範囲が広い!** ●日本国内であれば、行事の場所は問いません。 ※別に定める危険な運動などは対象外です。
●公民館が参加者を事前に名簿で把握している場合は、往復途上も補償します。
●食中毒や熱中症も補償します。
●有償・無償を問わず公民館ボランティアや講師も補償します。
●宿泊をとまなう行事も対象です。
- 掛金の割引あり!** ●同一市町村内で10館以上まとめて加入する場合には、掛金の割引制度があります。

補償例



2. 賠償責任補償制度 【賠償責任保険(施設所有管理者特約)・昇降機特約】

- 公民館の施設の欠陥や業務運営のミスにより第三者にケガをさせたり、物を破損し、公民館が法律上の賠償責任を負担した場合に補償します。
- 注)公民館が使用または管理する財物への賠償事故などは対象になりません。

3. 職員災害補償制度 【普通傷害保険(就業中のみの危険担保特約)・共済見舞金】

- 公民館業務に携わる方の業務中のケガを補償します。
- 病気や業務外のケガに共済見舞金を支給します。



のご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳しい内容につきましては「平成21年度版マニュアル 公民館総合補償制度の手引き」をご覧ください。また、本制度全般のお問い合わせ、資料請求等は、エコー保険サービスまたは損保ジャパンまでお寄せください。

■引受保険会社



株式会社 損害保険ジャパン

営業開発第一部署第三課
 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
 TEL 03-3349-4037

■取扱代理店(お問い合わせ・資料請求先)

エコー保険サービス株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂1-3-18

TEL ☎0120-636-717

FAX ☎0120-226-916

「表紙」

旧横浜ゴム平塚製造所記念館

愛称「八幡山の洋館」

旧横浜ゴム平塚製造所記念館は、平塚市内では唯一、神奈川県内でも数少ない明治時代の洋風建造物で、国の登録有形文化財(建造物)に登録されています。大正十二年(一九二三年)九月一日の関東大震災、そして、昭和二十年(一九四五年)七月十六日の平塚空襲でも難を免れ、平塚の街の歴史とともに存在し続けました。平成十六年四月、横浜ゴム株式会社から平塚市に無償譲渡されたことを受け、市は、多くの方に愛され、活用される建物として、八幡山公園に移築・復原し、平成二十一年四月一日に開館しました。記念館は木造一階建てで、延べ面積、約二百㎡です。応接室や会議室などがあり、応接室は明治時代のサロン風の部屋に復原展示しています。復原にあたり、鉄骨造平屋建ての管理棟(約百二十㎡)を併設しています。

面積は比較的小規模ですが、屋根の上のよく整った塔屋の形、アーチ型の窓、台形に張り出した出窓などが、明治期の木造洋風建築の特徴をよく表しています。

入館は無料です。ぜひ、お出かけください。[問合せ先(記念館)]

0463・35・7114